

てんかん発作の対応

～てんかん啓発の必要性 知っていれば助けられる～

国立精神・神経医療研究センター

看護部 原 稔枝



今日、お伝えしたいこと

- てんかん発作の観察・対応
- てんかんの告知
- てんかん啓発
- てんかん発作と安全への配慮



てんかん発作の観察・対応

発作に出会ったら

まず、自分の気持ちを落ち着かせ

冷静になりましょう！

突然起こる発作ですが、ほとんどの場合は自然に
終わり、発作そのものが致命的になることは滅多に
ありません

発作の誘発因子

- 覚醒時 : すっきり目覚めている時か, 眠気がある時か
- 睡眠時 : 入眠時, 熟睡時, 寝起き
- 身体状況 : 発熱, 興奮, 過労, 寝不足, 月経など
- 生活場面 : 入浴, 食事, 運動, 休息
- その他 : テレビ, ゲーム, 閃光, 大きな音など

誘発因子がわかると, 危険な状態の回避・発作コントロールに繋がる

発作時の観察ポイント

発作の始まり

病気の分類をする上で貴重な情報

動作が止まる, 転倒する勢いや方向, 力の入り具合
けいれんしている部位, 手や足の伸屈, 眼球の向き

発作の進み方

発作の波が脳の中でどのように広がるのか推測する情報

姿勢・表情の変化, 発作中の身体の動き(自動症)

発作後の様子

呼びかけへの反応, 手足の麻痺の有無, 言葉の理解
興奮やもうろう状態, 睡眠に入るか

発作の群発・重積

けいれん発作が3～5分以上止まらない
けいれんはしなくても発作を何度も繰り返す

対処方法

- スタッフへ応援要請（周囲へ応援依頼）
- 主治医、または当直医に連絡（家族・かかりつけ医へ連絡）
- 指示に従い、頓服、口腔粘膜投与、血管確保などの処置
- 時間経過ごとの発作症状を観察記録する
- 救急車を呼ぶ



てんかんの告知

てんかんをもつ当事者や家族の特徴

- 発症後間もない時期は、受け入れたくないという思いが強い
- 常に発作がいつ起こるのかという不安を抱えている
- 周囲も過保護・過干渉になりやすい
- 偏見や過剰な制限や対応を受けることがある
- 周囲から孤立し、誰にも相談できず多くの不安を抱えやすい
- 問題の原因を、全て発作によるものと転嫁することがある

てんかん発作によって小児期に起こる問題

- 発作観察に振り回されてしまい、**発作の出現に一喜一憂**してしまう
- てんかん発作の症状が当事者や家族に恐怖心や不安感をもたらし、**適切な病気や障がい受容を妨げてしまう**
- 発作に遭遇する機会が多いほど、周囲は**過保護**になってしまう
- 学校や就労で過剰な制限や対応を受けやすい
- **病気に振り回され**、自分に自信がなくなっていく

本人への告知について

服薬や学校生活での制約に疑問を呈した時が、告知のタイミングになる

話の内容

- ・病名
- ・発作症状
- ・服薬の必要性
- ・今後の生活での注意点

ポイントは、**具体的に分かりやすく**話をする事！



自立への援助

- 心理社会的な問題と向き合うために、児の自立は大切
- 疾患への正しい理解(知識の習得)
- 母子分離の問題(家族ケア)
- 発作をもちながらも、社会生活が行えるように問題を整理し解決する



周囲への告知について

告知することへの不安

- ・告知すると、人が離れて行ってしまわないか
- ・学校でいじめにあってしまうのではないか
- ・会社に解雇されるのではないか

対策

- ・周囲に病気を肯定的に伝える
- ・病気を正しく理解してもらえるように、本人・家族・学校・主治医
看護師・ソーシャルワーカーとで協同し進める
- ・病気や本人の思いを正しく理解してもらうために、**本人と家族自身
が病気を正しく理解し受け止める**必要がある



てんかん啓発

てんかん発作の対応

強直間代発作

- 症 状**
- 全身が硬くなり、細かなけいれん後、ガクガクとした動き
 - 顔色不良
 - 呼吸回復時、口の中の唾液を噴出する
 - 発作後眠りに入る事が多く、朦朧状態になることもある

- 対 応**
- ・危険な場所であれば安全な場所に移動
 - ・転倒により頭を床に打ち付けないように保護する
 - ・けいれん中は無理に押さえ込まず見守る
 - ・けいれん終了後、呼吸が回復したら唾液や異物の誤嚥防止に努める
 - ・睡眠に移行した場合は、無理に起こさない
 - ・発作後の回復には個人差があるので、普段の対応を目安に起こす

てんかん発作の対応

焦点意識減損発作(意識障害がない発作)

症状

- 無目的に歩き回る
- 意味のわからないことを言う
- 衣服近くにあるものをまさぐる
- 口をムニャムニャさせる
- 多くは発作中の自分の行動を覚えていない

対応

- ・無理に行動制限をせず、観察しながら傍で見守る
- ・危険回避ができないので、傍にいる人が危険物を取り除く
- ・名前を呼んだり、今居る場所を聞くなど意識の回復の仕方を観察する
- ・意識回復後に前兆の有無を聞く
- ・発作が小さくても繰り返す場合は、目を離さない(発作重積の可能性)

発作症状の観察と対応のポイント

- 発作の**始まりの症状や表現**を把握しておく
- 発作時の対応を知る(**安心してもらえる伝え方の工夫**)
- 発作時指示(頓服薬)実施, **必要時に酸素投与**
- 発作**重積既往の有無・処置方法(連絡方法)**を把握しておく
- 発作を**ありのまま**観察し記録する



てんかん発作と安全への配慮

リスク評価 てんかん発作の情報収集項目

前兆の有無	発作が起こりやすい時間帯・状況
発作中の意識の有無	発作の誘因
発作時の転倒の有無	発作による受傷歴
発作中の行動パターン	発作の頻度
発作後の状態	薬の減薬による発作増加
回復までの時間	薬の副作用

環境の調整

プレイコーナー



肘掛のある安定した椅子とカバー



食事時の安全への配慮

熱湯は避ける

プラスチックの食器

家具にカバー



保護帽着用

ひじ掛けのある
椅子

浴室環境の調整

浴室



脱衣室



洗面所



入水中(プール・お風呂)の発作への対応

- 入水中は必ず見守る
- 身体を支えて水面から顔を出す
- 浴槽の栓を抜く
- けいれん中は水中で体を支え、無理に引き上げない
- 発作が治まったら、ゆっくり水から引き上げる
- 溺れている場合は、ただちに水から引き上げ救急処置

食事中の発作への対応

- 口の中に食べ物が残っていても無理に出そうとしない
指やタオルなどを口に入れると、窒息や口腔内を傷つける危険大
- けいれんなど発作が止まったら、顔を横に向け誤嚥を防止
- 誤嚥の可能性がある場合は、すぐに吸引などの処置を実施

発作症状の観察と対応の注意点

発作型、発作の誘発因子を知り、**最小限の制限**での生活を提案

- 発作型を理解しリスク評価する
- いつ、どのような時に発作になりやすいかを知る
- 発作時の対処方法を知る

「**できない**」ではなく「**どうしたらできるか**」



知っていれば助けられる！！
てんかんの正しい知識と理解を！そして協力の輪を！

